

社協雄飛ヶ丘支部だより

ゆうひ

平成5年度第1号 (通算第1号)

発行：社協雄飛ヶ丘支部
支部長 荒川政夫
発行日：平成5年7月15日

今日の社協支部だより「ゆうひ」
表・リーダー研修会の講演から
「中村久子女史に学ぶ」講演要旨
裏・介護講習会が開催されました

各務原市社会福祉協議会地域リーダー研修会 講演「中村久子女史に学ぶ」を聴いて

地域リーダー研修会を開催

平成5年6月18日(金)、市総合福祉会館において、市社協主催の「地域リーダー研修会」が開催されました。雄飛ヶ丘地区から社協支部役員、自治会長、民生委員、近隣ケアグループなど地域の福祉活動のリーダーとしてご尽力いただいている多くの方々が参加されました。たいへんご苦労さまでした。研修会では、市社協北川常務理事の基調報告のあと三島多聞師の講演会が開催されました。

市社会福祉協議会北川常務理事が基調報告

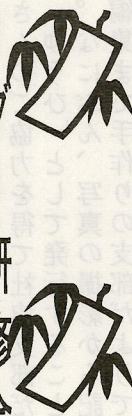
「21世紀に向けた地域福祉活動を！」
「地域リーダー研修会」では、市社協の常務理事の北川一氏から地域福祉活動を取りまく情勢と市社協の重点目標などについて基調報告がありました。この基調報告では、市社協では今年度「地域福祉計画」の策定に着手していること、17支部において「地域介護講習会」を開催するなど支部社協活動の強化に取り組むこと、福祉教育を推進していくため「小・中学生ボランティア塾」を開催していくことなどについて説明がありました。

感動の講演会「中村久子女史に学ぶ」

北川常務の基調報告の後、高山市・真蓮寺住職三島多聞師による講演会「中村久子女史に学ぶ」が開催されました。演題となっている中村久子女史のプロフィールを女史顕彰会のパンフレットからご紹介します。

「中村久子女史の生涯は、言語を絶する感動の人間ドラマであります。三才で両手両足を切断し、その障害の事実を身に引き受けて生きた人生は、健全者・障害者を問わず、「生まれた意義と生きる意義」を「自らに問わしめる」ものであります。女史の存在は、抽象的表現を破って具体的認識と感動をもって「生き抜く力」を我々に訴える象徴(シンボル)であります。

ヘレンケラー女史をして「私より偉大な人」といわしめた存在は日本はおろか、世界の人々の共通の宝であり、力であります。人間として真正直に、しかも自立と独立の開拓精神は、女史の「障害・貧困



・差別・別離・労働・結婚・勇気・子育て・感動から生れ、そこに私たちが人生の深い意味を学び知ることが出来ます。』とあります。以下に、真蓮寺住職三島多聞氏の力強いそして感動の講演の要旨を掲載します。

講演会「中村久子女史に学ぶ」要旨

『本日お招きいただきました講演会のテーマは中村久子女史に学ぶであります。女史は三才の時、突発性脱疽にかかり、両手両足を切断するという普通の人なら生きる勇気さえ失えかねない障害をもったにもかかわらず、自らの人生という舞台でその生まれた意義と生きる意義を悟り、これを現実に克服されたことに感動を持って多くの学ぶべき点があると思う。今日の話は、中村久子女史の不遇の境遇についての物語をみなさんに



講師 三島多聞 講演

知っていたりたくためのもではありません。あのヘレンケラー女史をして「私より偉大な人」といわしめた中村久子女史の生涯をわたしたちがどのように受け止めるべきなのかを感じとっていただければと思います。

国際化、国際化と呼ばれている昨今、過去・現在を通じて真に世界に誇る事ができる日本人が一体何人いたのでしょうか。こんな話があります。敗戦下の



中村久子女史

日本が発行しようとしていた紙幣の肖像の案(六人ほど)が当時のGHQに持ち込まれたことがあるそうです。その中で

GHQが唯一紙幣の肖像としてふさわしい人物として認められたのは聖徳太子ただ一人であったとされます。世界に通用する日本人がじつに少ないことを象徴しています。しかし、中村久子女史は日本が世界に誇ることが出来る数少ない人物なのです。その女史は岐阜県の高山市に生まれた人なのです。

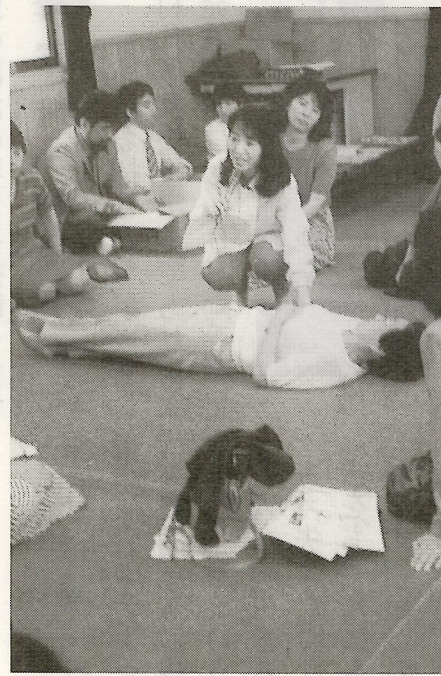
女史をして「手も足も満足に整っている人を私は幸せな人だと思いません。どんなに大きな幸せでしょう。当たり前だとみなさんはいいかもしれません。しかし、五体が完全であることは決してあたりまえのこととは私には思えないのです。」この言葉から多くのことを学んでほしいのであります。人間は努力をします。一生懸命努力をすれば、必ずそれに見合った結果が得られると信ずるからであります。しかし、この論理は一見普遍の原理のように感じますが、多くの場合この論理は「現実」という動かし難い事実に基づくと矛盾してくる場合が多いのです。果たして現実、努力した人のみがそれに見合う結果を得ているのでしょうか、宝くじはまじめに働いている人に当たるのでしょうか（聴衆から大爆笑）、現実はそのような場合が多いのです。ここに「現実」という外すに外せない壁が存在しているのです。女史が偉大であるのは実はこの点にあるのです。自分の境遇を「結果」とは受け止めないで、両手両足のない現実から逃げることなく身をもってしっかりと受け止め、他人の幸福と自分の境遇を比較することなく自らの人生の幸せを追究し続けたところにあると思うのであります。人間はややもすると他人との比較において自らの幸・不幸を計ります。女史の壮絶な人生を通じて人間としての教訓を学びとってほしいのであります。』と、万雷の拍手のなか三島師は講演を結ばれた。これは師の講演の内容のごく一部をご紹介したに過ぎません。途中で退席される聴衆はほとんどなく、熱心にメモを取られる方が多く見られるなど評価の高い講演会でした。

今後の支部社協の活動

- 7月
- 22日(木) 福祉野外映画会
会場：雄飛ヶ丘公園
原作・脚本・監督・宮崎駿
- アニメ映画
「風の谷のナウシカ」
- ◆毎日映画コンクール大藤賞受賞
 - ◆第2回日本アニメフェスティバルアニメ大賞受賞
 - ◆キネマ旬報読者ベストテン第1位
 - ◆など数々輝く賞を受賞した作品です
 - 25日(日) 市民清掃の日参加
- 8月
- 一社協会員増強月間一
 - 会費 一般会員 500円
 - 特別会員 1,000円
 - 近隣ケアグループ講習会(日時未定)
- 9月
- 12日(日) 市社会福祉フェスティバル参加
 - 19日(日) 三代クロケータゴルフ大会主催
- 10月
- 14日(木) 高令者を囲む食事の会
 - 31日(日) 三代体育大会(共催)

介護講習会が開催される

去る6月8日(日)、市社協主催の「介護講習会」が雄飛ヶ丘公民館で開催されました。参加された近隣ケアグループをはじめとするのみなさん、大変ご苦労さまでした。市社協からこの介護講習会の目的などの説明のあと、実際の介護の仕方についても講習がもたれました。高令化がますます進む状況にあって、講習会で習得していただきたいことを今後におおいに役立てていただきたいと思います。



介護講習会のようす(熱心に聞き入る参加者のみなさん、介護の実技講習にも真剣なまなざし)

社協支部だより「ゆうひ」の発行について

社協雄飛ヶ丘支部が誕生して以来、今年四月で十一年目を迎えています。かねてより、この社協の支部活動を広く雄飛ヶ丘地区の会員のみならずにご理解いただくため「社協支部だより」の発行を準備してきました。このほど、社協支部役員やボランティアのみなさんのご協力を得て社協支部だより第1号「ゆうひ」として発行することとなりました。なにぶん、写真の撮影から記事、原稿、編集まで手作りの支部だよりですが、ご愛読いただければ定期的に発行したいと考えています。よろしくお願ひ致します。平成5年7月7日

社協雄飛ヶ丘支部
支部長 荒川政夫